

建築学科 専門科目 スクーリング（令和7年度）持参物一覧

通信教育部スクーリング持参物について

スクーリング受講の際は、学生証・筆記用具・テキスト・学習指導書を必ず用意すること。

それ以外に必要な物を下に記載致します。当日は忘れ物のないようご注意ください。

●持参物や受講上の注意事項

表記された持参物は各自で必ず用意するようにしてください。対面授業の場合も学科から各道具の貸し出しは一切行ないません。

また専門科目には受講要件の設定されている科目が幾つかあります。必ず確認しておいてください。

○「製図用具一式・模型作成に必要な用具」について

製図及び模型制作で普段使用しているもの。また、作業に必要とされるものを用意するようにしてください。

品 名
三角スケール 30 cm
勾配定規 25 cm 964 25-05
鉛筆（H・F・HB）3本
製図用シャープペンシル 0.3 および0.5（H・HBの替芯）
消しゴム
製図用ブラシ
メッシュ字消し板
テンプレート No.101M
マグネットプレート
カッティングマット
トレーシングペーパー
カッター
かなざし（30 cm・15 cm）
スコヤ（15 cm）

※必ず上記の用具でなければならないわけではありません。準じた用具を用意してください。
通学課程の建築学科学生にも案内している内容です。

○「製図用具一式」と記載されているもの

図面を製図板に固定する道具はマグネットプレートを使用してください。

ドラフティングテープやマスキングテープなどは不可とします。

※テープ類使用不可の理由

製図板にテープの粘着材や剥がし跡が残ることがある。

粘着材やテープの跡を消すために製図板をこすると製図板が削れて傷がついたり、

跡が残る恐れがあるため、テープ類の使用は不可とします。

○「模型作成に必要な道具」と記載されているもの

カッティングマットを必ず用意してください。

○ 受講前参考資料

建築学科より、以下のテキストがスクーリング受講前の参考書として紹介されています。スクーリングを受講される前、報告課題作成前に一読されることをオススメします。

『用具選びから始まる製図のキホン ル・コルビュジエに学ぶ建築表現』（柏書房）

○ 遠隔授業（オンライン授業）の案内

建築学科のスクーリングは、大学で受講する対面授業と自宅などで受講できる遠隔授業の2つがあります。

遠隔授業の場合はオンライン接続に必要なパソコン環境と、オンライン会議アプリ『Zoom』のインストールが必要です。

また対面授業と遠隔授業では準備物が異なる場合がございますので注意してください。

（学習支援システムなどでお知らせすることがございますので、定期的にチェックしてください）。

【1 年次配当科目】

科目名	建築設計実習Ⅰ	単 位	通信２単位 面接２単位	配当 年次	１年次	授業 形態	実 習
テキスト	『建築設計演習 基礎編』 武者英二著（彰国社） 『初めての建築製図』 <建築のテキスト編集委員会>（学芸出版社）						
参考書	なし						
持参物	<ul style="list-style-type: none"> ・「受講生のための参考資料」（入学時に送付しています） ・学習指導書で指示された用具・スケッチブック（サイズは自由） ・色鉛筆または色マーカー（中細）６色程度 <p>【建築設計実習Ⅰ－１受講時】上記とあわせて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製図用具一式（勾配定規を含む） ・Ａ２ケント紙（４枚） ・『建築設計実習Ⅰ』第１報告課題 <p>【建築設計実習Ⅰ－２受講時】上記とあわせて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ａ３トレーシングペーパー（薄手ロールのものでよい） ・カッティングマット（４５ｃｍ×６０ｃｍ） ・カッター用定規・カッターナイフ（３０度の鋭角刃が望ましい）・接着剤（木工用速乾ボンド等） ・３ｍｍ厚スチレンボード（１５０ｍｍ×１５０ｍｍ） ・バルサ１ｍｍ、２ｍｍ、３ｍｍ（各１枚、厚み×８ｃｍ×６０ｃｍ程度） ・２ｍｍ角、３ｍｍ角（長さ６０ｃｍ程度）の角材 各３本（但しバルサで代用可） ・「建築設計実習Ⅰ－１」で作成した図面（コピー可） <ul style="list-style-type: none"> *１ｍｍ角、１ｍｍ×２ｍｍ角、の角材各３本あると便利なので、できれば用意してください。 *スコヤ（台付直定規）・ピンセットがあると便利なので、できれば用意してください。 <p><u>大阪芸術大学でのスクーリングの場合は、*以外のものは学内の画材店で販売しています。</u> <u>東京会場でのスクーリングや遠隔授業の場合は、事前に準備しておいてください。</u></p>						

科目名	インテリアデザイン演習Ⅰ	単位	面接2単位	配当年次	1年次	授業形態	演習
テキスト	『初めての建築製図』（学芸出版社）（建築設計実習Ⅰのテキスト）						
参考書	「インテリアの空間と要素をデザインする。」 フランシスD.K.チン 著 彰国社						
持参物	<ul style="list-style-type: none"> ・5mm方眼紙（A3）5枚程度 ・USBメモリー等の記録メディア ・図面を描くのに必要な道具 （直定規・三角スケール30cm、三角定規、字消し板、黒水性ペン製図用0.3mm、0.5mm） ・着色に必要な道具（色鉛筆、カラーマーカー、水彩色鉛筆、ポスターカラー白・黒、面相筆） ・調査見学に必要な道具（デジタルカメラ、メジャー5m） ・テンプレート（円、ロッド骨定規）、コンパス、分度器、勾配定規25cm ・カッター、ハサミ、スティックのり ・A3、A4クリアファイル（10ポケット程度） <p>※学外授業を実施する場合があります（受講場所や持参物は別途案内します）</p> <p><u>※受講許可後に送られる書類（事前リサーチ課題）を確認・準備してください。</u></p>						

科目名	CAD 演習Ⅱ	単 位	面接2単位	配当 年次	2年次	授業 形態	演 習
テキスト	「建築デジタルデザイン2」（受講許可者に購入方法を案内します。予定価格¥1,500）						
参考書	なし						
持参物	<p>Ⅱ－1</p> <p>『初めての建築製図』＜建築のテキスト編集委員会＞（学芸出版社）受講前に購入してください。</p> <p>『建築デジタルデザイン2』</p> <p>実習課題で気に入った作品を1・2点（コピー可）</p> <p>自分の過去の作品一つをモデリングが出来るレベルまで復習をしてきてください。</p> <p>Ⅱ－2</p> <p>Ⅱ－2 の受講時にⅡ－1 で作成した作品のデータを用意してください。</p> <p>CAD演習Ⅱは遠隔授業です。CADソフト「Vectorworks」の他、Photoshop、illustratorの準備が必要です。</p> <p>☆建築学科生は「Vectorworks 無償版」を購入できます。購入方法は学習支援システムで定期的にお知らせします。注文から手元に届くまで日数を要する場合がありますので、注文は早めに行なってください。</p>						

科目名	建築設計実習Ⅱ	単位	通信 2 単位 面接 2 単位	配当 年次	2 年次	授業 形態	実 習
テキスト	『建築設計実習Ⅱ』						
参考書	学修指導書を参照						
持参物	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト・参考書・学習指導書『建築学科』『建築設計実習Ⅰ』で指示された用具 ・スケッチブック・A2 用紙・カッティングマット（45cm×60cm） ・スチレンボード厚さ3mm・その他特に製図、モデル作成に必要な道具 ・『建築設計実習Ⅱ』の第1 報告課題（Ⅱ－1 受講時。遠隔授業の場合は課題は提出せず手元に置いた状態で受講してください） <p><u>大阪芸術大学でのスクーリングの場合は、参考書以外は学内の画材店で販売されております。</u> <u>その他会場でのスクーリングや遠隔授業の場合は、事前に準備しておいてください。</u></p>						

【3 年次配当科目】

科目名	建築演習Ⅱ	単位	面接２単位	配当 年次	３年次	授業 形態	演 習
テキスト	『初めての建築製図』（Ⅱ－１のみ、建築設計実習Ⅰのテキスト）						
参考書	なし						
持参物	<p>【建築演習Ⅱ－１受講時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製図用具一式 ・コンベックス（巻尺 ３．５ｍ以上）・カッターナイフ <p>以下は初日は使いませんが、２日目、３日目に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カッター用定規（３０ｃｍ程度）・虫ピン・クリップ ・カッティングマット（４５ｃｍ×６０ｃｍ） ・接着剤（発泡スチロール接着可能なもの）・Ａ２ケント紙２枚・赤ペン（細） ・スチレンボード（６０ｃｍ×６０ｃｍ程度 厚み３ｍｍまたは７ｍｍ） <p>【建築演習Ⅱ－２受講時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カメラ（デジカメ）・見学科、交通費（自己負担となります） ・帽子、日傘など（夏期スクーリング） <p>※遠隔授業の場合は上記の準備は必要ありません。持参物は別途案内します。</p> <p><u>大阪芸術大学でのスクーリングの場合は、学内の画材店で販売されております。</u> <u>その他会場でのスクーリングや遠隔授業の場合は、事前に準備しておいてください。</u></p>						

科目名	建築設計実習Ⅲ	単位	通信２単位 面接２単位	配当 年次	３年次	授業 形態	実 習
テキスト	『建築設計実習Ⅱ』						
参考書	学習指導書に記載						
持参物	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導書『建築学科』『建築設計実習Ⅰ』で指示された用具（バルサ、角材は除く）・スケッチブック ・A２ケント紙・スチレンボード・カッティングマット（４５ｃｍ×６０ｃｍ） ・その他特に製図、模型製作に必要な道具 ・『建築設計実習Ⅲ』第１報告課題を大阪芸術大学通信教育部へ郵送してください。 （遠隔授業の場合も手元に残さず大学へ郵送してください。東京会場で受講の場合も同様に大阪へ課題を郵送してください） <p>☆Ⅲ－２スクーリングは、別途、事前に追加の持参物を通知する場合があります。</p> <p><u>大阪芸術大学でのスクーリングの場合は、参考書以外は学内の画材店で販売されております。</u> <u>その他スクーリング会場や遠隔授業の場合は、事前に準備しておいてください。</u></p>						

科目名	測量演習	単位	面接2単位	配当年次	3年次	授業形態	演習
テキスト	配布資料						
参考書	なし						
持参物	・三角関数付き計算機（sin、cos、tan の計算及び 60 進法（ 0° 、 $0'$ 、 $0''$ ）計算ができるもの） ・定規（30cm）・三角定規（直角の線を引くため）・三角スケール（1/100 があるもの）						

【4年次配当科目】

科目名	建築設計実習Ⅳ	単 位	面接4単位	配当 年次	4年次	授業 形態	実 習
テキスト	なし						
参考書	なし						
持参物	<p>Ⅳ－１・Ⅳ－２</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製図用具一式 ・ケント紙（A2×2枚以上） <p>※「卒業設計・論文」で取り組もうと思っている内容・テーマに関する資料を持参できれば尚良い。</p> <p>※建築設計実習Ⅳ－１、Ⅳ－２は遠隔授業のみで開講します。</p> <p>Ⅳ－３・Ⅳ－４</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンベックス（巻尺3．5m以上、Ⅳ-3のみ） ・製図用具一式（CADの使用は認めますが、CAD演習室が使用できない場合がありますので、各自でノートパソコンを持参してください） ・デジタルカメラ（スマホカメラで可、Ⅳ－3のみ） ・模型作成用具一式（Ⅳ-4のみ） 						

科目名	卒業設計・論文	単 位	面接4単位	配当 年次	4年次	授業 形態	卒 業
テキスト	なし						
参考書	スクーリングにおいて、各自のテーマ設定に従って指示する。						
持参物	<p>「卒業設計・論文－1」スクーリング初日に以下の①②の2点を持参のこと。</p> <p>① 課題 「卒業設計・論文で取り組もうと思っている内容（複数可）のレポート」</p> <p>☆ このレポートはあくまで卒業設計・論文1において、担当教員と卒業設計・論文のテーマについて話し合う題材となるものであり、必ずしもテーマが確定している必要はないが、より具体的な内容であることが望ましい。指導教員から教えを請うのではなく、自主的に内容を考えるべきであり、そうしなければ面接指導における効果が全くない。 又そのために、2, 3の内容を考えてきてよい。</p> <p>● 提出規定 各内容毎に2000字以上でA3用紙にまとめる事。書式は自由であるが、ワープロ打ちとする事。又、イメージスケッチ・写真等を織り交ぜる事は可能とするが、字数には算定しない。 印刷物からの複写による場合はその出典を明らかにすること。</p> <p>◎ 提出にあたっては目的、コンセプト、事前調査内容をはっきりさせること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の問題点等を対象とする場合はそれらを把握できる資料、対象地域等のわかる地図 1/2500程度（役所や土木事務所で入手可）現状写真等の<u>コピー</u>（縮小版可）を別のA3用紙に貼り付け添付すること。 ・ 新規デザインアイデア等の提案をおこなう場合はその提案の背景及び概要を記述し、図、スケッチ、写真等を添付すること。 ・ 論文を選択する者は、研究内容についての関連論文等の紹介、参考文献の内容、研究方針等についての記述をおこなうこと。（図、写真の添付可） <p>② ポートフォリオ（自身の作品選集） 3年次までに提出した課題作品を適宜選択し、クリアファイル20ポケットにまとめる。 挿入作品の図面については縮小コピー等を可とするが、正確なスケールの表示を条件とする。 作品目次、タイトル、レイアウト等を工夫すること。また、プロフィールや実習課題作品以外の作品（展覧会作品やコンペ作品、研究レポート等）を加えてもよい。</p> <p>スクーリング全日を通じて各自の表現に見合った筆記用具／器具、設計道具、画材等を持参すること。</p>						